

センチメンタル



今回は特別編として下記の構成でお届けします。

I「センチメンタル楽曲解説」

II「岩崎宏美インタビュー」

III「センチメンタルアレンジ譜」

Iは高護の単独原稿でIIは馬飼野元宏さんとの共同作業で構成を馬飼野元宏にお願いしました。IIIは岡田ユミさんに採譜をお願いしました。

岩崎宏美さんご本人をはじめ

め、コンリアルアートの川島龍也さん、ビクターエンタテインメントの星健一さん、岡田ユミさんのご協力に心より感謝申し上げます。

筒美京平第3期黄金時代を支えたメインの歌手は岩崎宏美と太田裕美の二人である。作詞は岩崎宏美が阿久悠、太田裕美は松本隆。第1～2期における橋本淳、なかにし礼とは異なる新たな展開をみせることになる。

音楽的には岩崎宏美が音楽シーンを席捲していたソウル & ディスコ・ミュージックを全面的に導入。太田裕美はアレンジに萩田光雄を起用して台頭しつつあったニューミュージックを強く意識した方向性にある。

シングルA面は岩崎宏美が17曲、太田裕美が13曲と拮抗している。特に下記の1975～78年における両者のシングル・リリースは第3期黄金時代を代表する作品が連なる。

年月日	アーティスト曲名／作詞／編曲／チャート
1974/11/1	太田裕美 雨だれ／松本隆／萩田光雄／14
1975/4/21	太田裕美 たんぽぽ／松本隆／萩田光雄／33
1975/4/25	岩崎宏美 二重唱（デュエット）／阿久悠／萩田光雄／19
1975/7/25	岩崎宏美 ロマンс／阿久悠／筒美京平／1
1975/8/1	太田裕美 夕焼け／松本隆／萩田光雄／37
1975/10/25	岩崎宏美 センチメンタル／阿久悠／筒美京平／1
1975/12/21	太田裕美 木綿のハンカチーフ／松本隆／筒美京平／萩田光雄／2
1976/1/25	岩崎宏美 ファンタジー／阿久悠／筒美京平／2
1976/5/1	岩崎宏美 未来／阿久悠／筒美京平／2
1976/6/1	太田裕美 赤いハイヒール／松本隆／萩田光雄／2
1976/8/1	岩崎宏美 霧のめぐり逢い／阿久悠／筒美京平／4
1976/9/21	太田裕美 最後の一葉／松本隆／萩田光雄／5
1976/11/5	岩崎宏美 ドリーム／阿久悠／筒美京平／4
1977/1/21	太田裕美 しあわせ未満／松本隆／萩田光雄／4
1977/1/25	岩崎宏美 想い出の樹の下で／阿久悠／筒美京平／7
1977/5/31	太田裕美 恋愛遊戯／松本隆／萩田光雄／13
1977/9/1	太田裕美 九月の雨／松本隆／筒美京平／7



1977/12/21	太田裕美 恋人たちの100の偽り／松本隆／萩田光雄／27
1978/7/1	太田裕美 ドール／松本隆／筒美京平／21
1978/7/25	岩崎宏美 シンデレラ・ハネムーン／阿久悠／筒美京平／13

岩崎宏美のディレクターはビクターの笹井一臣。ヴィレッジ・シンガーズのベースストを経て、ビクターに入社。麻丘めぐみをゼロから手掛けて大ヒットさせた実績を持つ筒美京平と繋がり深い若き敏腕制作者である。

「センチメンタル」は岩崎宏美の3作目で、チャート1位の「ロマンス」に続いて連続1位を獲得した大ヒットであり、フィリー・ソウルをはじめとするソウル・ミュージックの要素を全面的に取れ入れた画期的な作品である。

デビュー曲「二重唱（デュエット）」は編曲に萩田光雄を起用。軽快で爽やかなアイドル・ポップスで、カップリングの「月見草」は穏やかなサウンドのワルツである。『スター誕生!』からのデビューで松田トシ門下という背景も含めて、この2曲が、デビュー時における岩崎宏美の大きな音楽的方向性を示している。

続く第2弾シングル「ロマンス / 私たち」では筒美京平が自らアレンジを担当して多層的なサウンド作りに挑んでいる。スタッフ内ではどちらをA面にするかというディスカッションがあり、阿久悠と笹井一臣は「ロマンス」を押して岩崎宏美と筒美京平が「私たち」という話は広く知られる。

重要なのは公の理由とはもかく、筒美京平が「私たち」をA面に想定していたことである。「ロマンス」は「二重唱（デュエット）」のポップス感を進めたサウンドで大ヒットに結び付いたが、「私たち」はすでにフィリー・ソウルの要素を部分的に取り入れている。つまり、デビュー作での岩崎宏美のシンガーとしての可能性を見極めた筒美京平は「私たち」で試みた自らのアレンジでソウル路線の推進を確信していたのである。

筒美京平にとっての歌手の評価は基礎的な発声や音程の正確さを前提とすれば、リズムとビートの潜在的な素質を重視していたと同時に、声質と音域について語ることが多い。そして人格や気質についてはかなりの確に捉えていた。

岩崎宏美は音程・リズム・ビートの三要素はほぼ完璧で、ツヤと伸びのある声質や音域も充分で発声はストレート。筒美京平にとっては歴代の数ある女性歌手の中でもTOP3に入る逸材といえる。つまり本気で筒美京平サウンド



を体現できる才能に満ちた若き歌手との出会いであり、コラボレーションの始まりである。

歌謡曲に R&B / ソウルやディスコ音楽の要素を取り入れることは筒美京平に限らず、当時の作編曲家の作品において特に珍しいことではない。筒美京平が「センチメンタル」で目指したのは別次元にある新たな方法論である。それはサウンドのビルド・アップすなわちビートの組み方そのものからの楽曲制作であり、これこそが新機軸なのである。つまりギターのカッティングやストリングのフレーズやハイハットのリズム・パターンといった部分的な装飾をアレンジに取り入れるといった凡庸な方法ではなく楽曲の骨格になるビートからのサウンド・プロダクションである。

75～76 年において展開される筒美京平・岩崎宏美の歌謡ソウルの 5 連作「センチメンタル」(1 位)～「ファンタジー」(2 位)～「未来」(2 位)～「霧のめぐり逢い」(4 位)～「ドリーム」(4 位)～は作編曲家筒美京平の 50 年におよぶ創作活動における最大にして最高の個性ともいえるべき「大衆性・先進性・独自性」の三要素を完璧な形で成し遂げたきわめて優れた作品群である。

その後も 78 年の筒美京平ディスコ歌謡の集大成ともいえる大作「シンデレラ・ハネムーン」および、そのフィーチャリング・アルバム『パンドラの小箱』を経て、1980 年には岩崎宏美にとって三作目となる全曲筒美京平オリジナル作品によるシティ・ポップス/AOR のコンセプトアルバム『WISH』で新たなサウンドを展開。これらはわずか 5 年間の凝縮された活動で生み出された作品である。その後の 83 年のシティ・ポップスの歴史的な傑作「素敵な気持ち」



「真珠のピリオド」を含む全 76 曲は珠玉の作品である。

「センチメンタル」の音楽的な大きな特徴はドラムスとベースのリズム・パターンが根本的に同一で全編を同じビートで押し進めていくところである。楽曲の構成はイントロ 5→A8→B8→C10 小節という 3 楽節構成の 2 ハーフ。A は「♪ 夢の ようね」B は「♪ と〜きめく」でサビ(C) は「♪ ブルーの服を〜」。

「二重唱 (デュエット)」～「ドリーム」のシングル 7 作中メジャー・キーは「センチメンタル」のみである。C メロが登場する 3 楽節構成は「センチメンタル」と「霧のめぐり逢い」の 2 曲。「二重唱 (デュエット)」が A8_B16 でサビ部分が長い変則型。「ロマンス」も A12_B16 という変則的な編成で、「ファンタジー」、「未来」が A8_B12。「霧のめぐり逢い」が「♪ もうあなたのわたしよ〜」で C メロが登場する 3 楽節構成で、「ドリーム」が冒頭に「♪ あなたにとどけ〜」の 4 小節のバースとコーダの「♪ ああ 夢かしら」を前後に配置した凝った構成で基本は A5.5_B8 小節。どの作品も旋律の種類も音数も多い、ゴージャスカつカジュアルなサウンドを纏った筒美京平謹製の極上ポップスである。

歌い出し冒頭の「♪ ゆめの」「♪ もしも」の 16 符と 8 符のコンビネーション三連符から驚かされるが「♪ ゆめの」の「♪ め」が下のソで最低音。下のソは女性歌手としてはかなり低めだが、頻繁に登場して楽曲を引き締める。

「二重唱 (デュエット)」の最低音がラ♭で「♪ ただ秘密の」の「♪ だ」。「ロマンス」は「♪ 好きなんです」の「♪ す」で同じくラ♭でどちらも一ヶ所のみある。最低音を半音下げてかつメロディーに組み込んで連発しているのは、楽曲を、より際だたせるのが狙いだらう。他のアイドル歌手とは異なる実力が発揮されることは当然だが、若きシンガー岩崎宏美の才能と可能性をより高次へ導いていこうとする筒美京平の明確な意志の現れである。

続いて「♪ しあわ〜せ」で G#m→AM7→F#m7/B と一音符ずつコード・チェンジする筒美京平黄金律が次々と繰り出される。Coda の最後半部は別のモチーフが登場して主メロが「♪ ラ〜ラララ」とスキャットに転じてバック・コーラスが「♪ とてもやさしい 素敵なあなた」と歌詞パートを担当する。仕掛けの多い楽曲だが、聴き手にはごく自然に軽快なポップスとして聴こえるのが筒美京平マジックの真骨頂である。体現する岩崎宏美の若さ溢れる歌唱も素晴らしい。

BPM は 118 と Moderato だがリズムのハネ方で聴感上はやや速め。キーは E。レンジは下がソで上がドの 1 オクターブ半。最高音はサビの入口の「♪



ブルーの服を」の「♪ふ」の部分。

バス・ドラムス & スネアとエレキ・ベースのコンビネーションがリズムの土台で基本はバス・ドラムが四つ打ちでスネアが二拍四拍。エレキ・ベースがスネア同様にややハネを強調しながら同期。スネア & ベースのビート・パターンにエレキ・ギターの印象的なリフが絡んでサウンドの骨格を形成している。

3 拍裏のハイハットがフィリー・ソウルの雰囲気醸成している。

A メロの出だしの 4 小節目の「♪ しあわ～せ」の「♪ シドミ～ファ」では G#m→AM7→F#m7/B と 1 音ごとのコード・チェンジによるキメが登場。イントロから続くギター・リフと歌メロとキメが一体化するという神業的なアレンジが展開されるきわめてスリリングでキャッチーな箇所である。

楽器構成は下記の通り。

ドラムス、エレキ・ベース、エレキ・ギター ×2、エレキ・ピアノ、アナログ・シンセを基礎にパーカッションという 7 人編成のリズム・セクションとトランペット ×2、トロンボーン ×3、サクス ×2 のホーン・セクションと 14 人編成のストリングス、バックিং・コーラスはシンガーズ・スリー。全体で 30 人を超える大編成の 70 年代筒美京平ポップ・オーケストラの素晴らしい陣容である。レコーディングは 1975 年 7 月 10 日。スタジオは東京青山のビクター・スタジオでレコーディング・エンジニアは梅津達男。

私が監修した『HITSTORY 筒美京平 ULTIMATE COLLECTION 1967 - 97』（98 年 SME）『HITSTORY』の楽曲解説では演奏者について下記のクレジットを示したが、いくつか誤りがあった。

クラヴィネット、アコースティック・ギター、ビブラフォンは収録されていない。またパーカッションはカウベルのみである。ヴィオラは収録されていると推測される。

当時のミュージシャン・コーディネーターのレコーディング時の記録をもとに記載したが、スタジオのレコーディング・セッションの現場での各パートの収録および最終 Mix 時における取捨選択は通常にあり得るので、私が未熟なために『HITSTORY』の楽曲解説の制作時に正確に理解できていなかったことが原因である。

田中清司（ドラムス）

武部秀明（エレキ・ベース）

水谷公生（エレキギター）

矢島 賢（エレキギター）

金成良悟（アコースティック・ギター）

栗林稔（エレキピアノ）

羽田健太郎（クラヴィネット）

ラリー須永（ラテン・パーカッション）

川原正美（ラテン・パーカッション）

越野禎子（ビブラフォン）

ホーン・セクション

トランペット：羽鳥幸二、佐野健一

トロンボーン：新井英治グループ

アルトサクス：清水万紀夫

テナーサクス：村岡健

ストリングス

友田啓明グループ：編成 1st バイオリン 6、2nd バイオリン 4、コントラバス 2 というヴィオラを抜いた編成。

このメンバーが 70 年代筒美京平サウンドを構築した最高のライン・アップである。特に田中清司・武部秀明・水谷公生・羽田健太郎の 4 人のリズム・セクションの演奏技術と質はフィラデルフィア・インターナショナルの MFSB にも匹敵する世界標準ともいえる高いレベルにある。

このレコーディング・セッションは翌 76 年 7 月の傑作アルバム『HIT MACHINE/ 筒美京平の世界』 KYOHEI TSUTSUMI & HIS 585BAND の中核を成すことになる演奏家とほぼ同一で、実質的には岩崎宏美 feat.585BAND ともいえる凄腕ミュージシャンのライン・アップである。

ギターは L チャンネルのリフと同時に R でカッティングが並行。実質的にはドラムス、エレキ・ベース、エレキ・ギター ×2 と四符打ちのカウベルがリズムの骨格を形成している。サビではエレキ・ギターが 2 台ともワウ・ペタルのエフェクトによるカッティングに移行。フィリー・ソウル感を演出する大きな要素となっている。過去のインタビューや取材から推測すれば、L のリフが水谷公生で R のカッティングが矢島賢ということだろう。

鍵盤は大きな主張はなく、栗林稔がおそらくフェンダー・ローズで基本はコード弾き。Coda に ARP のオデッセイと思われるアナログ・シンセが一瞬だけ登場してフックとなっている。ストリングスとブラスの聴かせどころはサビ終わりのインター部分でわずか 2 小節だが、ブラスとストリングスの掛け合いが見事





である。特にストリングスは2拍に7音符というきめの細かい符割りで印象的なフレーズを奏でる。

阿久悠はインタビューの対話の中で筒美京平との楽曲制作について「剣豪同士の他流試合」と表したことがある。筒美京平は作詞家の歌詞の濃濃について、なかにし礼や阿木燿子の描く人物像や表現に比べて松本隆の持つ世界観の淡さが筒美京平のメロディーやサウンドと程よくマッチすると語っていた。

筒美京平の作詞家別の作品数は橋本淳の568曲と松本隆の389曲が上位二者であることはよく知られるが、3位は阿久悠の129曲である。尾崎紀世彦「また逢う日まで」を筆頭に大橋純子「たそがれマイ・ラブ」やToshi & Naoko「夏ざかりほの字組」がヒット曲として名を連ねるが、阿久悠・筒美京平作品を代表する歌手の筆頭は岩崎宏美である。「二重唱（デュエット）」から「未完の肖像」までの10年間に岩崎宏美と筒美京平と阿久悠の3人が紡いだ29の楽曲は三者の力が存分に発揮された優れた作品であり、質の高い豊穡な世界には目を見張るばかりである。

阿久悠が「他流試合」と表したのは制作スタッフやレコード会社の人脈的な意味合いもあると思われるが、作風や制作方法の部分が大きいだろう。作詞家阿久悠の持ち味は企画力と物語の二点にある。作詞の成立要因としてあげられるのは設定（人物・場面・時代）・物語・言葉の三要素が大きい。筒美京平は、なかにし礼や阿木燿子の描く人物像や物語の濃さ、情念について述べたのである。つまり歌詞と旋律との関係における歌詞の比重について語ったのだが、阿久悠の作風をどう捉えるか。

「センチメンタル」は当初「感傷的な17才」という仮題だったとされている。真偽は不明だが、阿久悠の岩崎宏美という歌手の世界観と捉え方を現す象徴的な話である。おそらく阿久悠としてはリズムや新しいサウンドよりも、個性でもある伸びやかな歌唱を活かした歌謡曲の王道を進むことが岩崎宏美のコ



ンセプトとしては、より正解に近いという考えだったのだろう。それが「想い出の樹の下で」での路線変更を経て、「思秋期」での成果に繋がることになる。

「センチメンタル」の主題は「ティーン・エイジャーの仄かな恋心」といったところで女の子の初恋の小さな幸せを歌った若さに満ちた内容で感傷的な物語ではない。また歌詞に「センチメンタル」という言葉はない。これは「二重唱（デュエット）」も「ロマンス」も「ファンタジー」も同様の手法である。「未来」ではじめてタイトルと歌詞世界が合致する。

阿久悠が初期に最もこだわりを持つ作品のひとつが北原ミレイの「懺悔の値打ちもない」（作曲・村井邦彦）である。「♪ざんげの値打ちもないけれど」というサビの冒頭部分が歌詞先行で提示された場合、作曲者の創作や役割は、その時点でかなり絞られる。それだけの世界観と表現力がそこにはあるということだ。

岩崎宏美の作品における筒美京平との楽曲制作における阿久悠の詩作はまさに「剣豪同士の他流試合」そのものである。楽曲制作は作曲が先行して制作される場合が多くあり、その段階で具体的なリリック・ワークに取り組むことになる。筒美京平が最先端のソウル・ミュージックの要素を縦横無尽に取り入れた音数の多い旋律と複雑なサウンドに後から歌詞を創作することの難易度の高さは計り知れない。つまり、この場合、どうしても歌詞を「乗せる」作業の比率が大きくなるので、よほどの手練れでない限り筒美京平サウンドに歌詞の世界を委ねることになる。一方で阿久悠の目指す「岩崎宏美像」を言葉で「乗せる」作業だけで終わらずにどのように表現するか。まさに剣豪同士の激突である。

筒美京平の最先端かつ流麗なサウンドと阿久悠の無骨ともいえる言葉から紡ぎ出される物語のぶつかり合い。「センチメンタル」はその最高峰に位置する歴史的な傑作である。

筒美京平全曲研究・全曲解説 岩崎宏美インタビュー

——岩崎宏美さんはデビュー曲「二重唱（デュエット）」以来、数多くの作品を筒美京平さんが作曲されています。ここでは「センチメンタル」以降のソウル・ディスコ路線の楽曲を中心に、当時のレコーディングの際のエピソードなどをお伺いしていきますが、最初に、レッスンについて伺います。筒美さんは、曲が出来てからも、具体的にレッスンをされるのでしょうか。

岩崎 そうですね。筒美先生の頭の中ではもうアレンジも出来上がっているのです。「このキーでいいかな？」と簡単に音合わせをするぐらいですが。その際にはスコアもいただいていたので、物凄く細かい鉛筆の書き込みがあるんです。当時、私は譜面を読めなかったもので、とにかく耳で必死に聴いてメロディーを覚えるしかなかったんです。だから「ロマンス」の時に、最後の「席を立たないで」の部分をメロディーを間違えて覚えたまま歌ったら、「それでもいいですよ」と採用されたので、今となっては本当のメロディーがどうだったのか、知りたいぐらいです。

——筒美さんとのレッスンは、ビクターのレッスン室でやることが多かったですか。

岩崎 はい、そうでした。その際、歌詞はあったかもしれないのですが、先生がピアノをまず弾いてくださるんです。でも先生のスコアが細かいのと、テンポも速いので、「イントロが何小節で」と言われても、それすら数えられない状態でした。先生は全部メロディーが頭に入っているのです、全部弾くんです。私はどこからが歌メロなのか理解できないので、1本指でメロディーを弾いてもらい「はい、ここから歌いなさい」と、そういう形でした。

——歌の指導のようなことはされるんですか。

岩崎 歌い方を言われたことは2回だけでした。「二重唱（デュエット）」のB面の「月見草」の歌い出しを♪つ・き・み・そ・う…とスタッカートで歌いなさい、と言われたこと。あとは「霧のめぐり逢い」の時に、「あなた、変なクセがついているよ」と言われたときです。

——岩崎さんはオケ録りにも立ち会っていらしたんですか。その際に、オケと一緒に仮歌も録る形でしょうか。

岩崎 「二重唱（デュエット）」の時は録りました。ほかは曲によってですね。ドラムの音決めからいたのは「二重唱（デュエット）」です。レコーディングはビクタースタジオではなくて、私の記憶では高田馬場のアバコスタジオです。その時、自分の覚えているメロディーがいつまでたっても出てこないから「私の曲はいつやるんですか」と聞いたら「朝からやってるのが君の歌だよ」と。でもメロディーが違うんです……と言うと「はい、と言ったところから歌ってみなさい」と言われて、その通りにやったら歌えました。その際には筒美先生も阿久悠先生も萩田光雄さんもいました。あの詞は、阿久先生が急遽書いたそうです。

——有名なエピソードですが、「ロマンス」と「私たち」どちらをA面にするか多数決になったという。

岩崎 筒美先生は「私たち」をA面に考えていたようで、悔しかったでしょうね。だって、本当に多数決で決めて1票差だったんですもの。

——「ロマンス」が大ヒットした実感は、どういう形で受けましたか。

岩崎 「ロマンス」の時は、歌が売れるということは目に見えるんだな、と思

いました。その頃、堀越学園に通っていたので、中野の駅を出ると、いつもパチンコ屋さんから「ロマンス」が流れていて、そこでヒットを実感したんです。——次にリリースされた3作目の「センチメンタル」と、それ以降76年12月の7作目「ドリーム」までの5作は、筒美さんと岩崎さんのコラボレーションの、大きな成果だと考えます。「センチメンタル」のレコーディングは1975年の7月10日でした。

岩崎 あの曲はどうやって音合わせをしたか覚えていないんです。「ロマンス」がいきなり売れてしまい、その3か月後に出た作品ですから、忙しくなりすぎて、ほとんど記憶がないんですよ。しかも年末の新人賞などは全部「ロマンス」を歌っていたので、ちょっと陰に隠れてしまって、テレビでもあまり歌っていないんです。「センチメンタル」はむしろ、高校野球の入場行進曲に選ばれて、有名になりました。

——かなり難しい曲ですね。

岩崎 私が筒美先生にいただいた曲はどれも難しい曲ばかりで、テレビの歌番組では、いつも休憩時間にバンドの人たちが私の曲を練習していたぐらいです。

——筒美さんとしては「私たち」をA面にしたかったぐらいですし、あの曲が完成して、ソウル・ディスコ的な作品を岩崎さんなら歌える、と思われて、「センチメンタル」の方向に進んだと思われます。

岩崎 「センチメンタル」は、当初「感傷的な17才」っていうタイトルだったんです。

——阿久悠さんはそう捉えていたわけですね。一方、筒美さんはそういう叙情的な感覚を一切抜いて凄い曲をガンガン書いてくる。阿久さんの詞も決して容易いものではなくゴツゴツした印象がありますし、阿久悠、筒美京平、岩崎宏美三者のハイレベルなコラボレーションでした。阿久さんが生前、筒美さんとのやり取りは「剣豪同士の他流試合」と仰っていたことがあるんです。岩崎 それは凄いですねえ。

——特に「センチメンタル」は、キーがメジャーです。岩崎さんの筒美作品でメジャー・スケールは「センチメンタル」しかない。しかも日本の歌謡曲ではあのような、ソウル・ディスコ系の音楽がまだほとんどなかった頃です。

岩崎 そうなんです。今でもあの頃の曲はステージで、メドレーで歌っているんですが、メチャクチャかっこいいです。でも、私はデビュー当時、筒美先生に「あなたは少しリズム感が甘いところがあるので、もっとリズムのある曲を聴いて勉強なさい」と言われたんです。私、あれだけモータウンを聴いていたのに、どうして!?!と生意気にもそう思ったんです。しかも、ビクターはモータウンを扱っていましたから。私はデビューした後、ジャクソン5がもし来日したら、着物を着て羽田にお迎えに行く役をやりたい!と思っていたんです。そのくらい、このジャンルが好きでした。

——ヴァン・マッコイと一緒に映っている写真はありますよね。

岩崎 ええ。だけど私、あの時、ヴァン・マッコイの「Good Night Baby」にそっくりな「グッド・ナイト」っていう曲を歌っていて（アルバム『ファンタジー』収録）、そのレコードを彼にあげちゃったんですよ（笑）。

——その辺りは偶然の一致ということで（笑）。デビュー当時、筒美さんから歌唱音域の中低音についてアドバイスされたというエピソードがあります。

岩崎 はい。「あなたはこれから歌い手になるにあたって、いろんな方から高音を褒められるだろうけれど、あなたの良さは中低音にあるからね」と言われました。

——そのエピソードを考えると、「センチメンタル」は歌い出しの♪ゆめの～、でいきなり最低音を歌わせています。しかも「ロマンス」より半音下げている。「二重唱（デュエット）」や「ロマンス」では最低音は1回しか出てこないのに、「センチメンタル」では連発している。歌う際にはご苦労されたのではないのでしょうか。

岩崎 私は、人から音域が広いと思われるようですが、決してそうでもないんです。高い声が目立っているからで、低い声は本当に出ない。大人になってからは出るようになったけれど、当時はファルセットも使えなかったので、本当に出たとこ勝負みたいなところがありました。

——当時、岩崎さんは1オクターブ半プラス1ぐらいの音域だと思うのですが、この頃、筒美さんが手がけたシンガーでは圧倒的に音域が広いと思います。平山三紀さんのように、全体のレンジが低い人は別として、下の「ソ」が出るってなかなかいないと思いますが、「センチメンタル」は下の「ソ」が最低音ですから。

岩崎 そうなんですか、当時は、自分でも全然わからなかった。

——先ほどの歌入れ前のレッスンの話に戻りますが、70年代に筒美さんが関わられた女性シンガーで、ここまで力を入れて、しかも難しい曲を次々と作られた方は岩崎さん以外にはいないと思います。筒美さんが毎回レコーディングに立ち会うということも異例です。

岩崎 本当ですか？ 先生は私のレコーディングにしょっちゅういらしていたので、むしろほかの方のケースが信じられないくらい。だってアルバムのレコーディングでも来ますよ。『ファンタジー』の時もそうでしたし、『パンドラの小箱』なんて、全部ご自分でやっているから必ずしてくださいました。

——「センチメンタル」はA-B-Cの3楽節で作られていて、最後の部分で、第4のメロディーが登場し、「ラララ」の部分を岩崎さんが歌い、歌詞をコーラスが歌うというかなり斬新なスタイルでしたが。

岩崎 あれは面白いですね。コーラスはシンガーズ・スリーですか？ 途中からEVEに代わるまでは、私の作品はほとんどシンガーズ・スリーで、彼女たちは本当に上手いですよね。レコーディングのたびに感動していました。——2つのメロディーが交錯する曲想は、岩崎さんの作品で「媚薬」のエンディングもそうですし、馬飼野康二さんの作曲ですが「万華鏡」のエンディングも同様ですね。それと、フェイド・アウトの曲が圧倒的に多い。

岩崎 ミュージシャンたちが気持ちよく演奏してるからそのままでもいいか、ということなのかな（笑）。テレビで歌う時はテレビ用の譜面で処理すればいいか、と思っていたのかも。曲のノリがいいから、というのはあるかもしれないです。

——レッスンは「未来」や「霧のめぐり逢い」の頃もやっていたんですか。

岩崎 はい、必ずされていました。お会いしなかったのは最後に書いていただいた「許さない」の時だけです。最初にお話した「霧のめぐり逢い」の時のことはよく覚えています。歌い出しの♪あーなーたーね、の箇所を、♪あぁ、なぁ、たぁーねー、って歌う癖が出てしまって、筒美先生に「今まではいいけど、この歌は頭の音を拘わなくて歌ってください」と指摘されて、それが出来なくて、出来ない自分が悔しくて泣いてしまったんです。

——当時は曲をいただいた時、カセットなり、手で聴く方法はありましたか。

岩崎 はい、おじいちゃんが買ってくれたカセット・デッキで聴きました。一応譜面も渡されるんですが、でも歌詞で歌っていたかな。

——いつごろから譜面を読むようになったんですか。

岩崎 かなり後のことです。『Wish』の頃でも耳コピでした。

——77年1月の「想い出の樹の下で」で、一旦筒美さんとは離れますが、その後の曲で、他の作曲家の方とのレッスンや指導は、筒美さんとういつたところが違っていましたか。

岩崎 三木たかし先生はギターを弾かれて、それでレッスンしました。「檸檬」の時の鈴木キサブローさんは、ご自分のデモテープに合わせてのレッスンです。川口真先生もレッスンがありましたね。三木先生の場合は、歌い方が女性っぽくて、先生のように歌うのは難しいなと思った記憶があります。それは「思秋期」の時でしたが、私が感激して泣いて歌えなくなってしまったので、それどころではなくなり、「とにかくスタジオの電気を消すな!」みたいなことになったんです。

——78年の「シンデレラ・ハネムーン」で1年半ぶりにお2人のコラボが実現しますが、この曲が出来上がったのでアルバム『パンドラの小箱』のコンセプトが決まったのでしょうか。それともほぼ同時にこのコンセプトで進行していたのですか。

岩崎 どうだったんでしょう…そのあたりはよく事情がわかりませんが、久々の筒美先生の作品ということで、「シンデレラ・ハネムーン」はビクターでもすごく力を入れていました。女の子が夜遊びする歌なのに、軽井沢で「ひとりぼっちの結婚式」なんていうキャンペーンをやったりして（笑）。馬車に乗ったり、牧師さんの前でお嫁さんの恰好をしたり、歌の内容と全然違うのに。——この『パンドラの小箱』で作詞に阿木燿子さんが「媚薬」と「パンドラの小箱」で起用され、そのあとのシングル「さよならの挽歌」でも阿木さんと筒美さんのコンビがスタートします。

岩崎 阿木燿子さんが来るようになってから、周囲のスタッフがみんな浮足立っているんですよ。本当におきれいで可愛い方でしたから。忘れもしない出来事で、飯田さんが阿木さんに、詞が出来たので「見てください」と言ったら、阿木さんは一度渡そうとして、すぐに「ああ、やっぱり恥ずかしいわ…」と言って引込めたんです。その女性的なところを出した阿木さんの姿が、すごく強烈に残っています。

——その詞はどの曲か覚えていますか？

岩崎 「媚薬」かもしれない（笑）。

——「シンデレラ・ハネムーン」もそうですが、『パンドラの小箱』は全体に、低めのキーで歌う曲が多いですね。

岩崎 そうですね、中低音が多い。その時19歳ぐらいだから、もしかすると筒美先生は、私の音域を伸ばしてあげようと思ってくださったのかも。

——本格ディスコ調の曲が多いので、全体的にサウンドの重心を下げたこともあるのかも。

岩崎 たしかに、このアルバムの曲、ディスコでよくかかっていたからね。——デビュー以来、ずっと手掛けられているエンジニアの梅津達男さんとは、コミュニケーションをとったりすることがありましたか。。

岩崎 梅津さんはずーっと黙ってます（笑）。コミュニケーションをとるタイプではないですが、80年の『Wish』と、その後に出した『I Want Break your Heart』というアルバムでLAに行ったときは、梅津さんも一緒に、その時はずいぶんいろんな話をしました。『Wish』も実質的には梅津さんがやっています。『Wish』の時は、1日オフがあって、飯田（久彦）さんがディズニーランドにみんなを連れて行ってきて、その時には梅津さんも一緒にでした。筒美先生は行かなかったけれど（笑）。

——それはわかる気がします。

岩崎 ちょうど筒美先生のお誕生日だったので、みんなでケーキを囲んでお祝いもしました。先生はちょうど運転免許を取り立てで、向こうで車を借りて運転していましたよ。このアルバムでは「五線紙のカウボーイ」とか「Street Dancer」などは私の好きな曲で、『Wish』は本当に素敵なアルバムですね。この中の「Wishes」という曲で、筒美先生がピアノを弾いて同録をやってくださったんですが、他にそういうケースってあるんですか？

——ないと思います。

岩崎 やったー！ そのことは自慢できる！（笑）。あの時は橋本淳さんが軽くワインを飲もうとって、顔もほんのり赤いんですが、歌い出した途端に、心臓がバクバクして、よくあの雰囲気であの歌を歌えたなと思っています。まだ21歳でしたから。

——今でいうAORの見事なアルバムで、これがあって83年に「素敵な気持ち」ができるわけですが、「素敵な気持ち」は3年ぶりの筒美さんの曲ということで、いかがでしたか。

岩崎 楽しかったです！ 作詞の康珍化さんも歌入れにはいらしていました。これも本当にカッコいい曲で、今でもステージでは、アコギとピアノの3人の時は必ず歌っています。

——翌年にリリースした「未完の肖像」については。かなりのアップテンポで当時驚いたのですが。

岩崎 あり得ないくらい速いですよね。「夜のヒットスタジオ」で一度歌っていますけど、他で歌った記憶がありません。私の声よりコーラスのEVEの声の方が大きくないですか？（笑）。あの曲は私の10周年記念曲で、阿久先生と筒美先生、それに萩田光雄さんの編曲で作られたんですが、どうしてあのテンポになったんだろう…ステージでも歌っていますが、バンドもコーラスもみんなで追いかけてしながら歌っている感じになりますよね。

——筒美さんの作る、洋楽的な感性を持った歌謡曲の体現者として、岩崎さんが素晴らしい存在であったと言えますね。

岩崎 筒美先生に作っていただいた曲は、どれもとても洋楽的というか、カッコいい曲が多かったです。私も最初のリサイタルの時には、まだ「二重唱（デュエット）」と「ロマンス」と「センチメンタル」の3曲しか出していなくて、他は「2曲だけ君のリクエストに応えられる」と言われ、ロバータ・フラックの「やさしく歌って」と、ポール・マッカートニーの「My Loveを選んで歌ったんです。最初から洋楽を歌わせてもらえました。その後も毎年、必ず洋楽はコンサートのレパートリーに入れて、来てくださるファンの方も「またカッコいい曲歌っているけど、あれは何の曲？」といって調べて、その洋楽を聴き始めるようになるんです。野音のライブでもビートルズ・メドレーやチャカ・カーン・メドレーをやりました。それも筒美先生と組んで洋楽と遜色のない、カッコいい曲を歌わせてもらえたおかげだと思っています。

——岩崎さんは、例えば筒美さんの曲に詞をつけてみようとか、ダイレクトに制作に関わってみたいという願望はありましたか。

岩崎 ありましたけど、それは、私にとっては大変なことで、筒美先生の曲に詞をつけるなんて、チャンスもいただけなかったですし。

——今回発売された『筒美京平シングلز&フェイバリッツ』は、全曲、筒美さんが岩崎さんに書かれた楽曲だけで構成されていますが、監修も岩崎さんが手がけられたんですね。

岩崎 2枚目の選曲は私がやりました。B面曲やアルバム曲にもいいものがある

んです。もちろん、私のお気に入りのナンバーばかりで、「わたしの1095日」など、人気の高いB面曲も入れています。

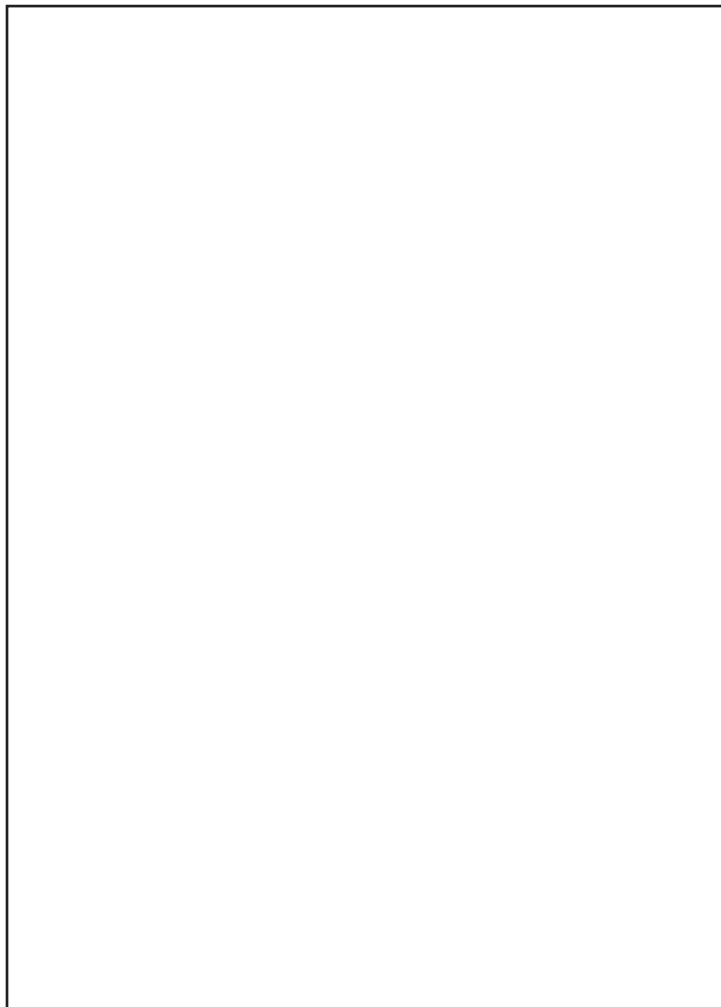
——岩崎さんの初期のシングルは、どちらがA面になってもおかしくない完成度だと思います。アルバム曲の「愛よ、おやすみ」や「バビヨン」なども、シングルを切ってもいいぐらいの完成度ですね。

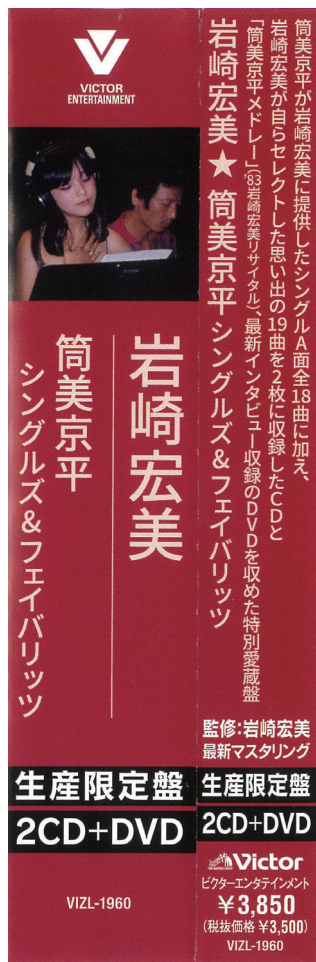
岩崎 本当にそうですね。実際にレコーディングしてどちらをA面にしたい、と聴かれたのは「ロマンス」だけですが、私は本当に楽曲に恵まれていました。——筒美京平という作曲家は、岩崎さんにとってどんな方でしたか。

岩崎 何しろ歌手・岩崎宏美を作ってくれた、親みたいな方です。まだ何もわからない頃に、贅沢に、いろいろな分厚い音で歌わせていただけたことは今でも私の宝物です。プライベートな話になりますが、私は一度目の結婚の時に、一般の方との結婚だったので、マスコミに絶対に知られたくなかったんです。それで秘密に式を挙げられる教会を探していたところ、筒美先生が、ご自分が式を挙げた渋谷の教会をこっそり紹介してくださったんです。そんなお優しいところもありました。私も父親を5年前に亡くしているんですが、筒美先生が亡くなられたときは、あまりのショックで、父を亡くした時より泣いたかもしれない。それは太田裕美さんも一緒だと言っていました。そんなにしょっちゅうお会いしたり、お話していたわけでもないのに、私の中で知らないうちに筒美京平という人がここまで大きく存在していたのか、と亡くなれてから実感しました。でも、本当にいい時代に、いい環境で育てていただき、とても感謝しています。

2021年10月14日 於 テレビ東京天王洲スタジオ INTER FM

インタビュー 馬飼野元宏・高護 構成 馬飼野元宏





筒美京平シングلز&フェイバリッツ 監修・選曲：岩崎宏美

2021 年最新マスタリング

岩崎宏美本人によるセルフライナーノーツ収録 / 解説：濱口英樹 / 歌詞付

CD / Disc1: シングلز

曲名 / オリジナル発売日 / 収録盤 / 作詞 / 編曲

- (1) 二重唱（デュエット） 1975/4/25 1st Sg 阿久 悠 / 萩田光雄
- (2) ロマンズ 1975/7/25 2nd Sg 阿久 悠 / 筒美京平
- (3) センチメンタル 1975/10/25 3rd Sg 阿久 悠 / 筒美京平
- (4) ファンタジー 1976/1/25 4th Sg 阿久 悠 / 筒美京平
- (5) 未来 1976/5/1 5th Sg 阿久 悠 / 筒美京平
- (6) 霧のめぐり逢い 1976/8/1 6th Sg 阿久 悠 / 筒美京平
- (7) ドリーム 1976/11/5 7th Sg 阿久 悠 / 筒美京平
- (8) 想い出の樹の下で 1977/1/25 8th Sg 阿久 悠 / 筒美京平
- (9) シンデレラ・ハネムーン 1978/7/25 14th Sg 阿久 悠 / 筒美京平
- (10) さよならの挽歌 1978/11/5 15th Sg 阿木耀子 / 筒美京平
- (11) 春おぼろ 1979/2/5 16th Sg 山上路夫 / 筒美京平
- (12) スローな愛がいいわ 1980/1/21 19th Sg 三浦徳子 / 萩田光雄
- (13) 女優 1980/4/5 20th Sg なかにし礼 / 筒美京平
- (14) 素敵なきもち 1983/2/21 30th Sg 康 珍化 / 萩田光雄
- (15) 真珠のピリオド 1983/6/5 31st Sg 松本 隆 / 萩田光雄
- (16) 未完の肖像 1984/5/21 34th Sg 阿久 悠 / 萩田光雄
- (17) 夜のてのひら 1986/10/21 41st Sg 来生えつこ / 武部聡志
- (18) 許さない 1999/3/3 53rd Sg ドリアン助川 / 山本健司

CD / Disc2: フェイバリッツ

- (1) 月見草 1975/4/25 1st Sg C/W 阿久 悠 / 萩田光雄

- (2) 私たち 1975/7/25 2nd Sg C/W 阿久 悠 / 筒美京平
- (3) 涙のペア・ルック 1975/9/5 1st AL 『あおぞら』 阿久 悠 / 筒美京平
- (4) パピヨン 1976/1/25 4th Sg C/W 阿久 悠 / 筒美京平
- (5) キャンパス・ガール 1976/2/10 2nd AL 『ファンタジー』 阿久 悠 / 筒美京平
- (6) 愛よ、おやすみ 1976/2/10 2nd AL 『ファンタジー』 ちあき哲也 / 筒美京平
- (7) 愛の飛行船 1976/7/25 3rd AL 『飛行船』 阿久 悠 / 筒美京平
- (8) わたしの 1095 日 1977/1/25 8th Sg C/W 阿久 悠 / 筒美京平
- (9) 南南西の風の中で 1978/7/25 14th Sg C/W 阿久 悠 / 筒美京平
- (10) 媚薬 1978/8/25 7th AL 『パンドラの小箱』 阿木耀子 / 筒美京平
- (11) ピラミッド 1978/8/25 7th AL 『パンドラの小箱』 橋本 淳 / 筒美京平
- (12) カンパセーション 1978/8/25 7th AL 『パンドラの小箱』 橋本 淳 / 筒美京平
- (13) L 1978/8/25 7th AL 『パンドラの小箱』 阿久 悠 / 筒美京平
- (14) 恋人たち 1979/3/9 カバー AL 『恋人たち』 阿木耀子 / 筒美京平
- (15) 五線紙のカウボーイ 1980/8/5 9th AL 『WISH』 橋本 淳 / 筒美京平
- (16) Sympathy 1980/8/5 9th AL 『WISH』 なかにし礼 / 後藤次利
- (17) Street Dancer 1980/8/5 9th AL 『WISH』 橋本 淳 / 筒美京平
- (18) 生きがい 1983/7/21 13th AL 『私・的・空・間』 有馬三恵子 / 萩田光雄
- (19) Wishes 1980/8/5 9th AL 『WISH』 橋本 淳 / 筒美京平

【初回限定盤付属 DVD 収録内容】

①筒美京平メドレー（Live at 郵便貯金ホール） 1983/10/1 センチメンタル～未来～ファンタジー～私たち＊2007 年 12 月 27 日発売 BOX セット「岩崎宏美 ROYAL BOX ～スーパー・ライブ・コレクション～」(VIZL-264) DVD 『83 岩崎宏美リサイタル』(VIBY-347) から収録（音声のみ 2021 年最新リマスタリング）

②岩崎宏美インタビュー（筒美京平先生の思い出）※2021 年撮りおろし映像～筒美京平先生との出会い～デビュー曲「二重唱」「ロマンズ」などシングル曲の思い出～全曲筒美京平作品アルバム『パンドラの小箱』『WISH』のエピソードなど収録インタビューー濱口英樹

筒美京平全曲研究・全曲解説

センチメンタル アレンジ譜

採譜 岡田ユミ

センチメンタル

岩崎宏美

作詞：阿久悠
作 編曲：筒美京平

1 **Intro**

Melo

Cho

Strings

Brass
(Inter/SynthLead)

E.Piano

E.Gt

Bass

Drs.

<Trumpet>

<Trombone>

5 6 **1A 2A**

Melo

Cho

Str.

Brass

E.P

Gt.

Bass

Drs.

Na Na Na Na

10 14 **1B 2B 3B**

Melo

Cho

Melo

Str.

Brass

E.P

Gt.

Bass

Drs.

Na Na Na Na

U

15

Melo

U

U

U

す き よ

す き よ

Str.

Brass

E.P.

Gt.

Bass

Drs.

20

22

1C 2C 3C

Ah

(す て き な か み を)

(す て き な

ブ か ル と の

ブ か ル と の

Melo

Str.

Cho

Brass

E.P.

Gt.

Bass

Drs.

25

Melo

Cho

Str.

Brass

E.P.

Gt.

Bass

Drs.

か み を)
ふ た - - か い
TuRuRuRu TuRuRu
TuRuRuRu TuRuRu
U
じゅ う な な さい

Inter1 Inter2

30

Melo

Cho

Str.

Brass

E.P.

Gt.

Bass

Drs.

Coda **Inter3**

34

Melo

Str.

(Bras Synth Lead)

E.P.

Gt.

Bass

Drs.

<SynthLead>

3

Outro

38 40

Melo

Cho

Str.

Synth Lead

E.P.

Gt.

Bass

Drs.

ラ

と

てもや

あ

ラ ラ ラ ラ

42

Melo

Cho

Str.

(Brass)

E.P.

Gt.

Bass

Drs.

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

す て き な あ な た と て も や さ す て き な

47

Melo

Cho

Str.

(Brass)

E.P.

Gt.

Bass

Drs.

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

あ な た と て も や さ し い す て き な あ な た

Repeat& F.O.

筒美京平_岩崎宏美作品

	年月日	曲名	品番	作詞	編曲	アルバム	CHART	メーカー
1	1975/ 4/25	二重唱（デュエット）	SV-1225	阿久悠	萩田光雄		19	
2		月見草		阿久悠	萩田光雄			
3	1975/ 7/25	ロマンス	SV-1243	阿久悠	筒美京平		1	
4		私たち		阿久悠	筒美京平			
5	1975/ 9/ 5	涙のペア・ルック	SJX-222	阿久悠	筒美京平	あおぞら		
6	1975/10/25	センチメンタル	SV-1257	阿久悠	筒美京平		1	
7		そうなのよ		阿久悠	筒美京平			
8	1976/ 1/25	ファンタジー	SV-1271	阿久悠	筒美京平		2	
9		パピヨン		阿久悠	筒美京平			
10	1976/ 2/10	おしゃれな感情	SJX-10122	ちあき哲也	筒美京平	ファンタジー		
11		キャンパス・ガール		阿久悠	筒美京平			
12		愛よ、おやすみ		ちあき哲也	筒美京平			
13		感傷的		阿久悠	筒美京平			
14	1976/ 5/ 1	月のしずくで	SV-6006	阿久悠	筒美京平			
15		未来		阿久悠	筒美京平		2	
16		夏からのメッセージ		阿久悠	筒美京平			
17	1976/ 7/25	愛の飛行船	SJX-10141	阿久悠	筒美京平	飛行船		
18		地平線の彼方		阿久悠	筒美京平			
19	1976/ 8/ 1	霧のめぐり逢い	SV-6038	阿久悠	筒美京平		4	ビクター
20		感傷時代		阿久悠	筒美京平			
21	1976/11/ 5	ドリーム	SV-6123	阿久悠	筒美京平		4	
22		スイート・スポット		阿久悠	筒美京平			
23	1977/ 1/25	想い出の樹の下で	SV-6171	阿久悠	筒美京平		7	
24		わたしの1095日		阿久悠	筒美京平			
25	1977/ 5/25	コンサート	SJX-10194	阿久悠	筒美京平	ウィズ・ベスト・フレンズ		
26	1978/ 7/25	シンデレラ・ハネムーン	SV-6449	阿久悠	筒美京平		13	
27		南南西の風の中で		阿久悠	筒美京平			
28	1978/ 8/25	L	SJX-20077	阿久悠	筒美京平	パンドラの小箱		
29		カンバーセーション		橋本淳	筒美京平			
30		コントラスト		島武実	船山基紀			
31		パンドラの小箱		阿木燿子	筒美京平			
32		ピラミット		橋本淳	筒美京平			
33		ミスター・パズル		島武実	筒美京平			
34		想い出は9月ゆき		島武実	筒美京平			
35		媚薬		阿木燿子	筒美京平			
36	1978/10/25	恋人たち	SJX-20089	阿木燿子	筒美京平	恋人たち		
37	1978/11/ 5	さよならの挽歌	SV-6501	阿木燿子	筒美京平		13	
38		夕暮れメヌエット		阿木燿子	筒美京平			

筒美京平_岩崎宏美作品

年月日	曲名	品番	作詞	編曲	アルバム	CHART	メーカー
1979/ 2/ 5	春おぼろ	SV-6542	山上路夫	筒美京平		15	ビクター
	吐息ばかり		山上路夫	筒美京平			
1979/ 5/ 8	ラブ・アラベスク	SV-6585	阿木燿子	筒美京平	夏に抱かれて		
1979/10/ 5	めぐり逢い伝説	SJX-20152	阿木燿子	後藤次利／船山基紀	10カラット・ダイヤモンド		
	小夜曲（セレナーデ）		阿木燿子	後藤次利／船山基紀			
1979/12/ 1	砂の伝説	SJX-8073～74	三浦徳子	筒美京平	ライブ&モア		
1980/ 1/21	スローな愛がいいわ	SV-6674	三浦徳子	萩田光雄		18	
	白夜		三浦徳子	林哲司			
1980/ 4/ 5	女優	SV-6717	なかにし礼	筒美京平		15	
	レンガ通りの恋人達		伊達歩	後藤次利			
1980/ 8/ 5	Half Moon	SJX-30016	康珍化	後藤次利	WISH		
	Kiss Again		康珍化	後藤次利			
	Rose		なかにし礼	後藤次利			
	Street Dancer		橋本淳	筒美京平			
	Sympathy		なかにし礼	後藤次利			
	Wishes		橋本淳	筒美京平			
	五線紙のカウボーイ		橋本淳	筒美京平			
	最後の旅		山川啓介	戸塚修			
	処女航海		阿久悠	筒美京平			
1981/12/ 5	やさしく叱って	GX-50005～6	阿木燿子	筒美京平	岩崎宏美のすべて		
	ブルー・エンジェル		三浦徳子	筒美京平			
1983/ 2/21	素敵な気持ち	SV-7290	康珍化	萩田光雄		32	
1983/ 6/ 5	真珠のピリオド	SV-7307	松本隆	萩田光雄		37	
	夜明けの天使たち		松本隆	萩田光雄			
1983/ 7/21	日暮れのマティーニ	SJX-30198	なかにし礼	奥慶一	私・的・空・間		
	テンペスト		なかにし礼	奥慶一			
	生きがい		有馬三恵子	萩田光雄			
	二人の午後に		有馬三恵子	萩田光雄			
	無口なヴィーナス		なかにし礼	奥慶一			
1984/ 5/21	未完の肖像	SV-7388	阿久悠	萩田光雄		54	
	二時に泣かせて		阿久悠	萩田光雄			
1986/10/21	夜のてのひら	SV-9179	来生えつこ	武部聡志		55	
	せつなさのバランス		来生えつこ	武部聡志			
1999/ 3/ 3	許さない	VIDL-30405	ドリアン助川	山本健司			
1999/ 3/20	あなたへ	VIDL-60325	ドリアン助川	山本健司			
1979/ 9/ 1	オフィーリアの子守歌	RVL-4703～4	中島梓	矢野誠	ロック・ミュージカル・ハムレット		
	愛はハーモニー		松本隆	矢野誠	ー		